

## 平成31年度 行政評価事業別シート

	<b>実計対象</b> <input checked="" type="checkbox"/>	<b>評価対象</b> <input checked="" type="checkbox"/>	<b>新規</b> <input type="checkbox"/>	<b>完了事業</b> <input type="checkbox"/>	<b>ゼロ予算事業</b> <input type="checkbox"/>	<b>担当者</b>	西條 圭
	<b>全体計画</b>			<b>経費区分</b>	<b>実施計画事業費</b>	<b>内線</b>	3415
<b>事務事業名</b>	4160 鳥獣被害防止対策事業						
<b>所 属</b>	150100 産業振興部・農林課						
<b>施 策</b>	05012100 農業の活性化						
<b>会計</b>	01 一般会計						
<b>科目</b>	060103 農林水産業費・農業費・農業振興費						
<b>事業</b>	020000 鳥獣被害防止対策事業						
<b>事業目的</b>				<b>事業概要・効果</b>			
地域、集落の現状と出没鳥獣の全体を把握し、最も有効な手立て（電気柵、わな、檻、緩衝帯整備など）を検討し、鳥獣被害を最小限に留め、農業者の営農意欲の持続に勤める。				<ul style="list-style-type: none"> <li>・サル・イノシシ用の電気柵・防護柵購入</li> <li>・緩衝帯整備に関する事業</li> <li>・有害鳥獣駆除業務</li> </ul>			

### PLAN-DO

#### 年度実績及び予定

平成27年度 実績	平成28年度 実績
電気柵2.6km 緩衝帯整備3.9ha	電気柵2.1km 緩衝帯整備1.4ha
平成29年度 実績	平成30年度 実績
電気柵 0.28km 緩衝帯整備 0.18ha	電気柵 0.56km 緩衝帯整備 0.4ha
平成31年度 予定	令和 2年度 予定
電気柵 1.5km 緩衝帯整備 1.5ha	電気柵 1.3km 緩衝帯整備 1.3ha

指標名	無し					
算式						単位
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和 2年度	
目標値	目標					
	実績					
指標選定の理由						
最終年度目標の根拠						
指標名						
算式						単位
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和 2年度	
目標値	目標					
	実績					
指標選定の理由						
最終年度目標の根拠						
指標名						
算式						単位
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和 2年度	
目標値	目標					
	実績					
指標選定の理由						
最終年度目標の根拠						

事業費

(単位：千円)

		平成30年度 決 算	平成31年度 予 算
事業費		15,576	20,170
特定財源	国庫支出金	0	0
	都道府県支出金	573	3,500
	地方債	0	0
	その他	380	380
一般財源		14,623	16,290
人員数(人)	正規職員	1.0	1.0
	嘱託職員	0.1	0.1
	臨時職員	1.0	1.0
人員コスト	正規職員	7,150.0	7,150.0
	嘱託職員	287.5	287.5
	臨時職員	1,245.0	1,245.0
	計	8,682.5	8,682.5
市民一人当たりの経費		0.5	0.6
総額		24,258.5	28,852.5

(単位：千円)

平成30年度決算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
8節 報償費	3,614	有害鳥獣駆除報奨金3,614
11節 需用費	426	野ねずみ駆除実施薬剤426
13節 委託費	1,298	猟友会有害鳥獣駆除委託1,297
15節 工事請負費	970	電気柵設置工事970
19節 負担金補助及び交付金	1,806	須坂市有害鳥獣駆除対策協議会負担金1,662 狩猟免許取得奨励補助金・猟友会補助金144
その他	7,462	電気柵材料費5,735 ほか

(単位：千円)

平成31年度当初予算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
8節 報償費	3,000	有害鳥獣駆除報奨金3,000ほか
11節 需用費	462	野ねずみ駆除実施薬剤432ほか
13節 委託費	1,600	猟友会有害鳥獣駆除委託1,600
15節 工事請負費	3,082	電気柵設置工事1,700 電気柵監視システム設置工事1,382
19節 負担金補助及び交付金	2,729	須坂市有害鳥獣駆除対策協議会負担金2,580 狩猟免許取得奨励補助金99、猟友会補助金50
その他	9,297	電気柵材料費7,500

CHECK

個別評価		
項目	評価観点	評価内容
必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民の生命・財産を守るため市が実施することが必要不可欠な事業であるか</li> <li>行政内部の管理運営上必要な事業であるか</li> <li>市が主体となり実施すべき事業か</li> <li>法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか</li> <li>目的は結果（施策の目指す理想）に結びついているか</li> </ul>	必要不可欠
評価コメント	有害鳥獣対策は農業振興において必要不可欠であり、耕作放棄地や空き家問題など、間接的に鳥獣被害に影響する分野と関連性が求められる。	
有効性	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業の成果は上がっているか</li> <li>目標に対する達成度は十分か</li> <li>市民生活上の課題解決に貢献しているか</li> <li>行政内部の管理上の課題解決に貢献しているか</li> <li>事業の目的が達成できるような事業内容になっているか</li> </ul>	有効
評価コメント	広域電気柵の設置により、農業被害のほか、市街地出沒についても防除効果がある。	
効率性	<ul style="list-style-type: none"> <li>成果を落とさずにコストを削減する方法はあるか</li> <li>効率性向上に努めているか</li> <li>使用料などの受益者負担や補助対象事業の範囲など、財源確保の余地はないか</li> </ul>	変わらない
評価コメント	電気柵における設置や維持管理は各町が主体となるが、少子高齢化や人口減少が進行することで経費のほか労務コストを圧迫する懸念がある。	

振り返り（決算年度の取組み課題）

高齢化による捕獲の担い手の減少（猟友会）や電気柵の管理体制について早急に対応していく必要がある。

## ACTION

## 1次評価

次年度以降の方向性	総合計画に沿って継続
-----------	------------

## 総合評価コメント

今後、管理に係る人的にもコスト的にも増大する懸念があるが、鳥獣害を防止するための重要な事業

## 2次評価

次年度以降の方向性	総合計画に沿って継続
-----------	------------

## 2次評価コメント

未設置地区への電気柵敷設も進められており、猟友会の協力をいただく中で、より効果的な対策が進められている。

## 外部評価

次年度以降の方向性	
-----------	--

## 外部評価コメント

--